



特定非営利
活動法人 静岡県伝統建築技術協会
事務局 静岡市駿河区登呂6丁目14番35号
〒422-8033 TEL・FAX (054) 282-1103
Eメール：bansyokai@za.tnc.ne.jp

新理事長になって

理事長 矢部 忠司

今年度より理事長を引き継ぎましたが、浅学な私ですので会発展の為に何卒皆様のお知恵とご協力をお願い致します。

当協会はNPO法人として平成15年に発足して3年が経過しました。初代理事長として大変ご苦労されました塚本元二氏に感謝申し上げます。

私も発足時の理念に基づいて行動していくつもりです。時代の変化を考え、総会・理事会等で多くの皆様の意見を伺い、その声を少しでも会の発展に反映させる力になればと思います。

NPO法人の役目は定款で定められた通りですが、職業や趣味を通してどのように地域社会に貢献するのが良いかを今後協議していく必要があるように思います。それには先ず、継続して活動すること、会員の意義の向上や技術の研鑽、企画した行事への参加などが必要と考えられます。

昨年度は普及啓蒙事業として、伝統建築に対する一般への周知と会の活動紹介を兼ねて、会員の作品や県内文化財の写真などの展示会を県内3ヶ所で開催しました。初めての経験でしたが、来場の皆様には当協会のユニークさが理解して頂けたと思います。

一般の人々の興味が、彫刻や模型など日頃接することの少ない専門技術だったように思われました。次回からは完成写真ばかりでなく、工事中の写真など物件を絞った展示も考える必要を感じました。今年度は年度末頃に1回展示会を予定していますので、ご協力をお願いします。

今年度も調査研究事業として数件の県内古建築の調査に協力していますが、特定な少人数で行なっているのが現状です。多数の会員に協力頂ければ、より効率も上がり、多くの調査が出来ます。さらに会員自身の今後の仕事に反映できる可能性もあります。それぞれ自分の仕事がありますが、休日などの可能な範囲で参加されることを望みます。

NPO法人になる以前より実施していた県外研修や文化財修理現場の見学も、技術継承発展事業として実施したいと思っています。工事現場は平日が原則ですし、先方の意向や工程のタイミングもあり、ここ数年は少人数の参加になってしまい残念です。多くの会員が参加できるような計画を立てたいと思います。

会報「万匠」の発行を初めとする情報発信も重要な事業の一つです。年間2回程度の会報の発行、3ヶ月に1回程度の会員だよりの発信を考えています。会員で共有できるようなそれぞれの仕事の情報や各自の近況等をお知らせ下さい。編集委員が困らないようご協力をお願いします。

今後の課題として、会員の増強も重要と考えられます。伝統建築に興味があり、当協会の趣旨に賛同頂ける方がいましたら是非ともご紹介下さい。

最近の建築工法は大きく変わりつつあり、技を磨くことが益々少なくなりました。残念に思う一方、これからどのように技術を後世に伝えたら良いか悩むところです。

また、最近のテレビではリフォームの画像が盛んに流れ、一般大衆の人気になっているようです。耐震性や耐用年数を無視した興味本位と思われる報道が気になります。近頃は在来の木造建築を知らない技術者を多く輩出している時代です。いかにして「伝統」と「モラル」を守るかを考えていかなければなりません。

会員皆様の顔を思い浮かべれば、多趣多様な方々があり、この集まりを大切にしていきたいと思えます。皆様と連携を深め、協力し合い困難を乗り越えて行きたいと思えます。

終わりに、会員の皆様のご繁栄を願っております。

古建築の様式

松浦昭次

日本の社寺建築は大体時代別に四ツに分けることが出来る。古代（飛鳥・奈良・平安時代 593-1185）、中世時代（鎌倉・室町 1186-1573）387年間、江戸時代（近世、桃山・江戸末まで 1574-1863）、明治・大正・昭和・平成は現代建築。

飛鳥時代に佛教が中国から日本に伝来され、寺院が建立された。推古4（596）年に百済から来た大工・左官・瓦工・画工・鋳物工達が飛鳥寺を完成させた。これまでの建物は堀立作りであったが、基礎石の上に立つのには人々はおどろいたとの事であった。その後、建物は基礎石の上に建つ様になる。

また建築様式も四ツに分けられる。和様、大佛様式（天竺様）、禪宗様式（唐様）、折衷様式である。

和様とは飛鳥時代・奈良時代・平安時代に建てられた建築様式で主に奈良県の建築に多い。

鎌倉時代（1186）になると中国から大佛様式が入って来る。これは大佛殿を建立する為に考えられた様式で、その中心人物は東大寺大勧進に任命された俊乗房重源である。

大佛様の特徴は、

- (イ) 貫で柱を繋ぎ、長押は使わない
- (ロ) 組物は柱に肘木を挿した挿肘木を重ねる
- (ハ) 木鼻（材木の先端部）に独特の繰形（彫刻）を施す
- (ニ) 扉は棧唐戸で、藁座を用いて吊る
- (ホ) 太い虹梁を多用して屋根を受ける梁組を組む
- (ヘ) 屋根の隅のみ扇垂木にする
- (ト) 垂木の先端に鼻隠板を打つ
- (チ) 軒反りは無し。

現在、日本には大佛様は数が少ないので詳しい事は言えないが、奈良大佛殿は土間だが、兵庫県小野市に在る浄土寺浄土堂は板床で、縁側は樽椽で椽扱首は無く、椽板は目すかしで脳天釘打ちである。

ほかに重源が建てた建築は東大寺南大門くらいで、京都市上醍醐寺、山口県東大寺別院周防阿弥陀寺が建立されたと云われている。重源が中国福建省の周辺の様式を基に考案されたという雄渾な構造の建築が建永元（1206）年に重源が没すと、その後は大佛様が建立されなかったと言う。それはなぜかと言う事が言われているが日本人には好まれなかったのか。

しかし13世紀中期頃より、構造的性能の向上と装飾彫刻の多用という特徴を持つ建物が、和様及び禪

宗様と共に建立される様になる。これが鎌倉中期、室町時代に建てられる折衷様式である。

禪宗様の特徴は、

- (イ) 柱が細く粽がある
- (ロ) 柱の上に台輪を載せる
- (ハ) 柱は貫で繋いで長押を用いない
- (ニ) 組物は柱間にも組む詰組である
- (ホ) 頭貫・台輪などの木鼻に繰形を付け、組物その他に彫刻をした部材を多く付ける
- (ヘ) 扉は棧唐戸で、藁座を用いて吊る
- (ト) 繫虹梁は海老虹梁を用いる
- (チ) 長大な虹梁を架けて柱を省略する構造にする
- (リ) 天井は鏡天井を用いる
- (ヌ) 上層屋根は扇垂木を用いる
- (ル) 尾垂木は鼻を細くして斜に切る
- (ヲ) 柱下に礎盤を用いる
- (ワ) 床は土間又は四半敷である
- (カ) 飛貫と頭貫の間に弓欄間がある
- (ヨ) 窓は花頭窓である
- (タ) 壁板は縦板である
- (レ) 遊離尾垂木が付く
- (ソ) 裳階付きである
- (ツ) 軒反の反りが深い

等色々和様とはちがう事がわかる。禪宗様は栄西によって臨済宗に伝えられ、道元によって曹洞宗に、この二宗に江戸時代に伝来された黄檗宗を加え、これを禪宗と言ひ、この三宗は禪宗様である。

和様とは、鎌倉時代になって大佛様と禪宗様が伝来したために、従来からあった伝統的な建築様式が改めて意識される事となった。こんにち我々はこの伝統的様式を和様と呼んでいるが、このように考えて来ると和様の源流は飛鳥・奈良時代に輸入された中国唐の建築様式となるのであるから、これを和様と呼ぶ事が出来るのだろうか。日本には神武以来の大和時代神社建築が存在していたが建築様式はわかっていない。ただ伊勢神宮や出雲大社、また住吉大社などが大和時代の建築様式という事が出来るかというと考えさせられる。現在、京都府の宇治神社が一番古い平安後期の建築である。六百年代に輸入された唐の様式が、初めは日本の様式ではなかったもので、唐の様式が日本の風土に融けこみ、国風化して和様と呼ばれるようになるが、平安後期から鎌倉に

かけて和様にも奈良時代の和様と少しちがう様式が建てられるようになる。これを人によっては新和様と呼んでいる。

和様・新和様・大佛様・禅宗様・折衷様と呼ぶ様になったのも明治時代の建築学者達が言い始めたことで、昔の工人達は他の建築を見て、これ以上良い建築を作る事に心掛けたのではないかと思う。

大佛様・禅宗様が輸入されてからは日本建築も大きな変化を見せる事になる。和様建築に大佛様式を一部取り入れたもの、禅宗様式を一部取り入れたもの、また和様・禅宗様・大佛様式を多く取り入れる

建築物も出て来る様になる。

織田信長・豊臣秀吉の桃山時代の建築文化は、同じ近世建築に属しながら江戸建築とは少し異なる物になってきている。桃山時代の建築は自由な伸びやかさを持っているのに対して、江戸時代のものは型にはまった固さと圧迫感がある。江戸幕府の治世下で禁令などの狭い範囲での工作技術の抑制が出て来る。また平内家の匠明書や江戸の木割り書(マニュアル書)による建築が多くなり出来も良くない。彫刻・彩色・文様など職人が腕を競う様になる。

会員紹介 一日頃の活動から一 ・氏名 ・勤務先 ・職種 ・実績など(会員は順不同・随時掲載)

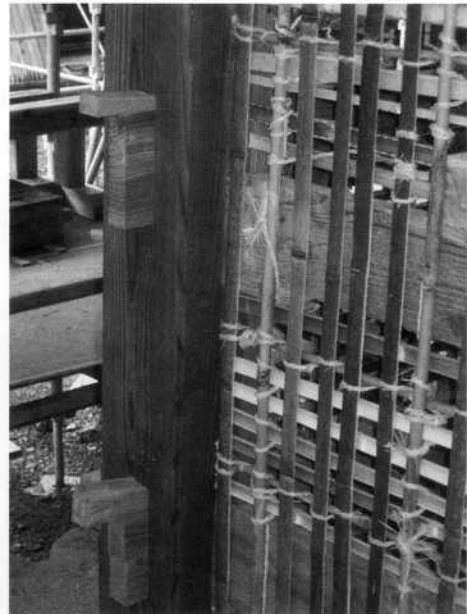
久保山幸治 ・建築設計・一級建築士

「在来工法のいのち(好い加減)」

一静居寺開山堂保存修理現場から一

県指定文化財である島田の静居寺開山堂は、梁間3間(15尺)桁行4間(20尺)16本の柱で構成される寄棟造りの小堂で、本年4月より解体に着手し、現在は部材の補修作業も調い、改めて組み直され復原工事が進捗中である。

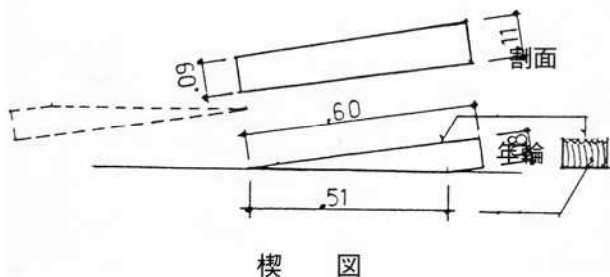
当初解体にあたっては、斗拱もなく、単純構造であり勞せず作業が進むものと考えていた。事実小屋組丸桁の撤去までは順調に進んだ。残すは貫及び柱の解体となった。柱は一部檜材が使われているが大半は5寸角の杉柱である。この柱に対して約2尺間隔にて6段にわたって貫が通されている。貫は杉材厚さは約1寸、成は大きいもので約4.6寸である。長さは、梁間方向は継手を造らず1本もの。桁行方向は極力長物を使用し継手の位置をずらして組み上げ、楔で締めている。ここへ来てこの貫の解体には大分苦勞した。貫を通し柱の両側面から楔締めしているのであるが、一方の楔を引き抜こうとするともう片方の楔が付いてくる。これは楔そのものの造り方が実に理に適っているのである。



一見粗雑な造りにも思えるのであるが、目の詰んだ杉桁目材を鉋等で割り、この割肌面を楔同士が接する面とし、残り三方は鑿等で簡単に仕上げる。互いに差し込まれた楔は割られた年輪の凸凹が微妙にずれて、大きな摩擦力を発揮する。これが実に好い加減なのである。

小さな木片の楔ではあるが、伝統建築の素晴らしさ及び、当時仕事に携わった工人達のもの考え方・ところをまた一つ学ばせていただいた感がある。

機械力に物を言わせ何でも綺麗に建物を造る時代になったが、今一度原点に立ち返って伝統建築の何たるかを考えてみたいものである。また、これらの良さを現代の建造物に存分に生かしていきたいものである。



大場喜久司

・有限会社 大寶建設 ・建築大工・注文住宅・社寺建築



今年四月に落慶式を行った物件・周智郡森町陸奥の「曹洞宗九峰山宗源寺新築工事」です。内容は本堂：木造日本瓦本葺入母屋流れ向拝造り48.75坪、位牌堂・開山堂18坪、書院・廊下・給湯室・東司40.25坪、玄関受付棟13坪、総坪数120坪。

本堂には欄間4枚と虹梁1本、開山堂には丸柱、虹梁、三斗組枝輪等、旧本堂の部材を調整再使用した。本会会員の業者から、屋根瓦工事・寺元様、左

官工事・両角様、木彫刻・伊藤様に協力をお願いしました。

現在手掛けている工事は、一般住宅で、壁部分は全て落とし嵌め工法、設計は本会会員の中谷悟設計工房です。この工事は中遠建築高等職業訓練校「木の家造り勉強会」のメンバーで構成され、お施主様もその一人です。工事期間を通してメンバー及び一般の方にも公開しています。地元材を使用し在来工法の家造りの良さを認識いただき、高温多湿の日本の風土にあった家造りを目指し、伝統工法の伝承と後継者育成を考える人たちの物件です。建坪18坪、玄関・居間・和室・台所・トイレ・洗面浴室の平屋建て、日本瓦葺き。四寸角化粧力垂木を三尺間に置き一寸の化粧板の上に二重野地。土台以外の木材は全て杉材を使用している。工期は10月初めから12月中旬の完成予定。

鈴木立志

・鈴木建具木工所 ・木製建具

最近2件の建具修理に携わったので紹介する。

1. 禅長寺頼政堂（沼津市指定文化財）

元禄11年（1698）建築と伝えられる禅宗様式仏殿の両開棧唐戸左側1本を修復した。材の損傷が大きく苦労したが、既存材の調査から柄穴を楔状（斜め）に加工してあること、召合せ框の見付を同じ寸法に見せる工夫など過去の仕事を学んだ。

木部の色合せは、以前本会で古色塗の研修指導をお願いした京都の森氏に依頼、金物も京都の横山金物店に既存と同寸の製作をお願いした。



組上った建具

2. 鳳林寺山門（静岡市草薙）

文化年間（1804～1817）の建築と伝えられる薬医門の両開棧唐戸を解体修理した。材が楠であったため、丸太を探して購入し加工した。楠の乾燥具合の見極めと扱れた縦框の再使用取付けに苦労した。

なお、門の解体修理は日本建築専門学校（富士宮市）が担当し、学生が中心となって施工した。文化財修理に準ずる仕事希望のため、非常勤講師である松浦昭次先生（選定保存技術保持者、本会名誉会員）が修理の指導に当たった。



学生と鈎込みを行なう

岩崎日出夫

・ワカバ商会 ・瓦屋根

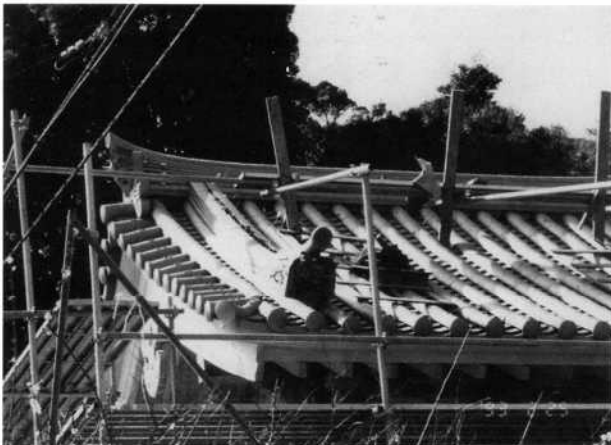
「万匠会との出会い」

平成2年7月、下田市の中西左官工業さんより、湯ヶ島町に「弘道寺」と言うお寺があり、その山門の屋根葺き直し工事の破損瓦の数量、設計図にある山門の袖塀の瓦葺上げの見積りを依頼されました。

見積りが出来、届けました所、初めて小川組の小川さんを中西さんより紹介されました。小川さんは、今左官仕事が忙しいので私の方での事、当方も忙しくてと言いますと、1人で工事を続けて下されば有難い、瓦降しは三人程中西さんより出しますとの事で、9月6日瓦降し、10月に入って下地葺き、11月に入って瓦葺きを始めました。

棟取りを始めて台辺に崩壊を防ぐ為のおまじないをしている所に、小川組の監督さんが見回りに来ました。その翌日、台辺熨斗を張り、二段目の熨斗を張り始めた頃、色々と見て回る人がいました。下に降りて行くと、ご苦労さんとの事で、色々と言葉を交わして、名刺を頂きました。見ると「神村」とだけ書いてあり、これぞ名刺だと思いました。帰り際、猫を出さないようにと言われ、私が「大丈夫、鬼際二分上げ、中を三分下げましたから」と言うと、安心したようで、「帰ります」と言って帰って行きました。

平成3年に入って小川さんより、夜電話があり、今神村さんの所に居るとの事、その時初めて神村さんが、万匠会の会長で有る事が分かりました。この会は年に1度は、京都方面に、目のこやしに古民家や、古寺院等を見に出かけていて、神村会長が、小川さんに責任を持って、私の万匠会入会を勧めるよう依頼し、私には小川の顔を立てて欲しいとの事、私も古民家等を見るのが好きなので入会することに致しました。



大安寺鐘楼屋根完成間際

しかし入会資格がないと入れないと言う事でした。入会するには静岡県の文化財保存協会の会員で無いと入会できないとの事、小川さんに教えていただき、文化財保存協会と万匠会の入会届けの書類に書き入れて万匠会に送り、両方の手続きをすませていただき、入会する事が出来ました。

その後は、小川さん初め会の方々にお世話になっています。本年も8月に入ったら下田方面に、挨拶回りに行く矢先、万匠会より小川さんの逝去の報に接して、ただ驚き茫然としてしまいました。

私にとって、故神村会長と小川さんは、仕事とは言え、出会いの人でした。

謹んでおくやみを申し上げます。



大安寺鐘楼屋根完成姿

塀屋根工事

- | | |
|---------|--------------------------|
| 平成4年12月 | 下田市大安寺鐘楼新築屋根工事 |
| 平成10年3月 | 榛原郡榛原静谷古民家榛原の家
屋根補修工事 |
| 平成14年 | 三島市寿町楽寿園楽寿館
屋根補修工事 |
| 平成15年 | 下田市下田了仙寺山門
屋根補修工事 |

等小川組と当方での工事例です。

第2回展示会報告

「伝統建築とその周辺」一匠たちの仕事その2—

日時：平成17年11月10日(木)～15日(火)

会場：ウッディカクホン浜松店・展示ギャラリー
入場無料

後援：静岡県教育委員会、財団法人伊豆屋伝八文化振興財団、静岡県文化財保存協会

目的：伝統建築に対する一般への周知と会の活動紹介

内容：静岡県に存在する国・県・市町村指定及び登録文化財建造物を対象として、その伝統的技法及び保存技術などについて、写真・図面・模型・サンプル等を使って紹介する。

主催：当協会

11日に中日新聞遠州版、12日に静岡新聞浜松版で報道された。

・一般入場者数 221名（会員24名）

○今回は新聞報道もあり、木彫刻の実演（伊藤章晴会員）の日は、一日で103名の入場者があり、全体の47%という結果になった。

○祭り屋台が盛んな西部地方の特徴か、木彫刻や屋台模型に関心が多かった。

○展示会又は当協会に対する意見、希望の主なもの

- ・また浜松で開催して下さい。その時は連絡下さい。
- ・骨組模型や継ぎ手などをもっと見たかった。
- ・継ぎ手や模型の分解してあるものも展示してあると、もっと興味がわくと思う。
- ・屋台の彫刻や木組みの展示会があれば見学したい。
- ・出展された方々に実際の話を知りたい。
- ・伝統建築の講演や文化財研究の事例紹介があったら良かった。
- ・文化財等の修理現場も見学できればありがたい。見学会などあればお知らせ下さい。
- ・県内の古民家紹介なども行なって欲しい。
- ・身近な所で携わっている方がいる事すら知りませんでした。
- ・年々忘れられそうな素晴らしい技術を、いつまでも後世に伝えて下さい。
- ・これから益々大切な仕事の分野になると思う。どんどん広報して下さい。



木彫刻の実演



小屋組模型



会場の様子



会場の様子

第3回展示会報告

「伝統建築とその周辺」一匠たちの仕事その3—

日時：平成18年3月21日(火)～26日(日)

会場：三島市民生涯学習センター3階・市民ギャラリー及び講義室 入場無料

後援：静岡県教育委員会、財団法人伊豆屋伝八文化振興財団、静岡県文化財保存協会

目的：伝統建築に対する一般への周知と会の活動紹介

内容：静岡県に存在する国・県・市町村指定及び登録文化財建造物を対象として、その伝統的技法及び保存技術などについて、写真・図面・模型・サンプル等を使って紹介する。

主催：当協会

24日に朝日新聞静岡版で報道された。26日には顧問の建部恭宣先生の講演会も行なった。

- ・一般入場者数 110名（会員延べ41名）
- ・講演会参加者 45名



会場の様子



文化財の写真 撮影：田畑みなお



会場の様子



木彫刻の実演

- 今回初めて当協会のホームページを見て参加してくれた方が2名いた。
- 各分野平均して関心があったように見受けられたが、特に重文に指定されたばかりの富士川町「古谿荘」の写真（田畑氏撮影）に関心が多かった。
- 展示会又は当協会に対する意見、希望の主なもの
 - ・木組みの仕組みが知りたかった。
 - ・ガイドテープ（アナウンス）があれば良かった。
 - ・木組みや和釘などを見て「百聞は一見にしかず」納得、解って面白かった。
 - ・日本建築の伝統技術やその活動の様子が、今回の企画のようにわかりやすく建築関係者や一般の人々に展示開放されることは、大変有意義なことと思います。
 - ・職人さんの丁寧な仕事に感激しました。次回を楽しみにしています。
 - ・建築業者の人達に見て頂くと良いと思いました。
 - ・内容がパネル形式のみでもの足りない。伝統建築を伝えていく苦勞、施工手順、工夫などもっと具体的に訴えることを希望します。
 - ・伝統建築の世界に誇れる芸術性と気品に改めて感動した。是非これからも古建築の保存と匠の技術を後世に継承して下さい。

事務局便り

○平成18年度事業報告(中間)

調査研究事業

1 「静居寺開山堂保存修理工事」 島田市旗指

静居寺から委託され、県指定文化財である開山堂の保存修理工事に伴う計画・調査指導・報告書作成業務を平成19年4月10日まで継続中。その後引き続き「位牌堂改修工事」監理業務を9月末まで実施する予定。

2 「妙蓮寺表門調査」 富士宮市下条

妙蓮寺から委託され、市指定文化財である表門の調査・設計業務を平成18年10月25日まで実施。

現地調査を2回実施して図面及び報告書を作成し、10月31日提出した。

3 「平井家住宅調査」 熱海市網代

熱海市から委託され、登録有形文化財である平井家住宅の学術的調査及び報告書の作成を平成19年3月20日まで実施する。年内に現地調査に入る予定。

普及啓蒙事業

1 「伝統建築とその周辺」一匠たちの仕事その4—

過去3回の経験を生かした展示会を来年2～3月頃に静岡市内で開催する予定。同時に講演会を実施、講師を名誉会員の大石治孝先生にお願いする方向で検討中。

技術継承発展事業

1 「静居寺開山堂」の軸組みが見られる現場見学会を10月29日(日)に実施した。

2 「大日本報徳社大講堂」の現場見学会を11月7日(火)に実施した。

情報発信事業

1 「万匠」第51号の発行

新理事長の挨拶、名誉会員松浦昭次氏の仕事、会員紹介、展示会その2・その3の結果等を主に掲載した。

平成18年度からの役員

理事長	矢部 忠司	矢部工務店
副理事長	久保山幸治	一級建築士
同	吉本 均	(有)おて文字
理事	鈴木 立志	鈴木建具木工所
同	中谷 悟	中谷悟設計工房
同	松塚 薫	矢部工務店
同	石川 薫	石川薫建築設計事務所
監事	高木 郁生	天竜プレカット事業(協)
同	山田 明	(有)山田工務店
顧問	建部 恭宣	日本建築専門学校

訃報

下田市の小川直之会員が7月30日午前9時2分ご逝去されました。小川氏は前身である静岡県民俗建築技術協会からの会員であり、長く理事及び監事を務めて頂きました。

非常に残念であり悲しいことですが、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

8月1日のお通夜には建部先生と事務局・石川、2日の葬儀には理事長・矢部と副理事長・吉本が参列してお別れを致しました。

☆跡継ぎの小川聡之介氏が会員を継続します。

新入会員紹介

・高橋 敏彰 (たかはし としあき)

浜松市上西町981-2-504 TEL 053-463-8813

(榊杉浦建築店 現場管理 2級建築士

『日本建築の最高峰にある伝統建築を自分達も理解し学ぶ事で、良き伝統や文化を少しでも継承したいと考えています。』

・中川麻衣子 (なかがわ まいこ)

静岡市清水区八木間町390-7 TEL 0543-69-4446

文化財建造物保存事業技術者養成研修終了

『失われつつある技術を記録し後世に伝えて行くべきと考えております。』

・森山 彰 (もりやま あきら)

島田市相賀886-1 TEL 0547-32-0415

森山建築 大工

『時は流れても、文化財を一つでも残していてもraitaitaiと思う。』

◆編集後記◆

夏の終わり頃、皆様に原稿をお願いして、発行は年の瀬。原稿はすぐに書いていただけたのですが、個人的なことで遅くなってしまいました。いただいた原稿をデータとして印刷屋さんへ送るのですが、これが私にとっては重荷の作業でした。建築についての名称や部位の無知さを痛感しました。久保山さんから後を引き継いだのですが、身の程知らずだったことを悔やみつつ、編集を終えました。

—N—